

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | 福澤諭吉伝 (8)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

福澤諭吉伝 (8)

ようやく日本は、諭吉の願っていた新しい国となってきました。

しかし新政府では、政治の舵取りをどうするかについて、大きな対立が出てきました。

かつての親友であり同志でもあった、大久保利通と西郷隆盛の対立です。

1877年、とうとう「西南戦争」が起こり、薩摩軍は破れ、西郷も自決します。

翌年、大久保も西郷を慕う不平士族に暗殺されてしまいます。

西郷、木戸、大久保という「維新の三傑」とよばれたリーダーを失い、混乱する新政府を見て、板垣退助や後藤象二郎らは、国民の選んだ議員による議会をつくれという意見書を出しました。

諭吉は国会を開くことに大賛成でしたから、その諭吉に政府が発行する新聞の編集を頼みに、伊藤博文、井上馨、大隈重信の3人がやってきました。

諭吉は政府の目的が国会を開くための用意であると聞かされて一旦は受けませんが、その後自由民権派である大隈派が政府から追い出されたことを知り、政府の新聞ではなく、自由な意見を書くことができる「時事新報」を、1882年発行します。

諭吉47歳の時です。

ちなみに政府を追われた大隈は、学問の自由を掲げて東京専門学校（のちの早稲田大学）を建てます。

この年、自由民権運動を広めるため、岐阜で演説をしていた板垣退助が反対派に刺されます。

その時、「板垣死すとも、自由は死せず」と叫んで人々を感動させましたが、まだまだ日本の世情は不安定でした。

諭吉の下で多くの門下生が育ちました。

この多くの門下生たちは、やがて日本を背負っていくことになります。

英国マンチェスター・ガーディアン紙は諭吉を「日本のソクラテス」と讃えましたが、諭吉は「無知の知」を知らせるなどといった迂遠な方法をとらず、「時代が必要な知は何か」を直接的に語ることで彼らを導いていきました。

そして明治という最も「人材」を必要とした時代にその供給を一手に引き受け、文字通り近代日本の基礎を築きました。

「教育」というものの持つ可能性の大きさをそこに見ることができます。

1898年、諭吉は自叙伝「福翁自伝」を書き上げた年の秋、脳出血で倒れ一時は危篤状態になります。

いったんは元気になった諭吉ですが、1901年2月にふたたび倒れ、66年の生涯を終えました。

江戸末期、黒船来航を機に欧米文化が怒涛のように押し寄せ、数百年続いた封建制度が根底から引っくり返る大変革のさなか、毅然とし、ぶれることなく日本の未来を見据え、日本人の精神のあり方を説いたのが福澤諭吉でした。

家族を支え家族を頼らず、国家を支え国家を頼らない「一身独立（独立自尊）」の姿勢。

これこそ、福澤諭吉が未来の日本人に託し、日本の国の礎になるべきものでした。

(終わり)

「参考文献」

福沢諭吉（浜野卓也著）、国を支えて国を頼らず（北 康利）、福翁自伝（斎藤孝）

文明の政治には六つの要訣あり（平山洋）、福澤諭吉が生きていたら（扶桑社）

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです

傾聴

語り部スキル

>>一覧へ戻る

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ 📄 このサイトについて 📄 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.